



千葉市役所

百の歴史を、千の未来へ

会社名	千葉市役所
事務所	千葉市役所 千葉県千葉市中央区千葉港1番1号
代表者	市長 熊谷俊人
設立	1921年1月
資本金	公共機関のためなし
社員数	11,560名(2019年4月1日現在)
事業内容	市民に身近な区役所等での窓口対応・訪問指導や各種施策の企画立案・事業推進など市政全般にわたる幅広い仕事をします。

テーマ:千葉市とは、千葉市らしさとは 『4つの都市アイデンティティー』

はじめに、千葉市についてご説明します。人口98万人、現在の市長は「熊谷 俊人」という若い市長です。千葉市の地理的な場所ですが、千葉県の地図をモチーフとしたチーバくんの喉の辺りに位置しております。今、千葉市では、アイデンティティー、(自分とは何者なのか、この資質はなんなのかということ)として四つ打ち出しているものがあります。

一つは、「加曽利貝塚」です。貝塚として、全国で初めて特別史跡に指定されました。二つ目は、「千葉氏」です。市の名前も千葉で、そのほか全国にも千葉さんがたくさんいらっしゃいますが、ルーツは千葉氏が全国に散らばったことからきています。千

葉市は、1126年に千葉氏が中央区亥鼻に本拠地を移して開府した日としています。

三つ目が海辺です。人工海浜としては、「日本一」です。稲毛海浜公園は、民間事業者の力を生かし、リニューアルしていきます。「いなげの浜」も全部白い砂浜に変わります。

四つ目は、「オオガハス」です。「オオガハス」は、世界最古の花といわれていまして、約2000年前の古代のハスの実が花見川区見つかり、それを大賀博士が発芽させたというのが由来となっております。ちはなちゃんというキャラクターを知っている方もいらっしゃるかと思います。

1. 取り巻く状況について

千葉市を取り巻く状況について、説明さ

させていただきます。まず国勢調査（国の統計調査）を見ると、国の人口が減少していく中で、千葉市はどうかというと、千葉市も状況は同じです。人口ピークが2019年となり、2020年から減少していく見込みとなっています。

続いて人口の増減地域です。千葉市は、千葉市以南の地域から人が転入してきますが、東京方面に転出してしまいう状況があります。東京圏の人口の増減を表す図から分かるように、東京方面へ向かう傾向があります。つまり、千葉市以東、以南では人口減少が始まっているということです。

また、通勤流動と昼夜間の人口比率では、千葉市に特徴が見られます。政令都市における勤務先別割合を見てみると、千葉市民の58%は、市内の会社に勤務しています。東京近隣の都市を見てみると、埼玉市50%、川崎市42%、横浜市60%となっており、比較的、市内に勤める人が多いです。そして、千葉市から東京都に通勤する人は、21%で、他の政令市より低くなっています。千葉都民と耳にしますが、千葉市はイメージとは異なる結果となっております。

次に昼夜間人口比率というのがあります。これは夜の人口を100としたときに、昼間はどれぐらいかという数値になっています。千葉市は特徴がありまして、97.9です。他の市と比べると昼間の人口が多くなっています。これは、千葉市に大学が多く、また、企業もたくさんあるので、通勤・通学で、周辺市域から人が流入するため、昼間の人口も多いということです。次に千葉商圏（買い物動向）です。商圏人口は241万人。県内最大の商圏であり高い商業拠点性を発揮しています。東京と比べたら商圏

としては小さくなりますが、千葉エリアの中では、房総半島の南のほうから千葉市へ買い物に来るといった拠点になっています。

このような状況の中で、千葉市としては、東京への人口流出を防いで、千葉以南から人口を受け止めて、千葉市にしかできない独自のものを推し進めたいのではないかと考えています。

2. 千葉市役所のお仕事

千葉市役所の仕事について説明します。民間企業を志望される方も参考まで、知っておいていただけたらと思います。

公務員には、主に地方公務員と国家公務員があります。財務省や国土交通省、その他裁判所など、国が運営している各省庁等の国家公務員と、市役所、都庁、県庁などの地方行政を司っている地方公務員とがあります。地方自治体は、都道府県、市区町村で分かれており、人口数等の要件で、分かれています。まず、政令指定都市の定義ですが、人口が50万人以上の市から政令で指定された都市となります。

次に中核市、人口要件は20万人になります。その他に、東京都の特別区があります。この中で、千葉市は政令指定都市という位置付けになります。政令指定都市になると、都道府県から様々な権限が委譲されるというのが特徴です。

千葉市役所の仕事は、市民の暮らしを守り、都市としての新たな可能性を切り開いていくことをミッションに、今後も訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたい魅力ある「まちづくり」を行うものです。

3. 千葉市役所7つの重点戦略

次に、千葉市の重点戦略、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明します。民間企業でいうところの中期経営計画にあたるものです。

これには総合戦略を貫く、都市経営の三つの方針とシナリオを実現する七つの重点戦略があります。

◇都市経営の三つの方針は、

- ①自立した“ちば”共創都市圏を支え、
活力の中心となる都市へ
- ②産業と経済、地域社会の活性化を押し
進め、魅力あふれる都市へ
- ③人口減少・少子超高齢社会を見据えた、
成熟都市へ

です。

次に、七つの重点戦略についてです。

・戦略1

「自立した“ちば”共創都市圏で、
わたしたちが果たす役割の追求」

市長間における経済分野における連携、つまり、周辺自治体と共に、千葉経済圏の確立を目指すものです。

・戦略2

「都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」

まず、都市の活力を支えるための、グローバルレベルでのMICE（会議、招待行、学会、展示会）への取組です。これは国際会議や国際イベント、展示会等の誘致・支援をする事です。そのほか、企業誘致を積極的に行うなど、産業の振興を目的とした取組もしています。

・戦略3

「出産・子育ての希望をかなえ、

若い魅力にあふれたまちづくり」

これは、多様な保育サービスの提供や教育の充実などの取組です。保育士を目指している方には関係してくると思います。待機児童がいろいろと社会問題になっていますが、ゼロを目指して、市民の働く環境を整えていきます。

・戦略4

「高齢者が心豊かに暮らせる
まちづくり」

様々な機関が連携して、高齢者を地域で支えていく（地域包括ケアシステムの構築）というような内容になっています。

・戦略5

「都市資源を活用し、ひととひとが
つながるまちづくり」

これは、都市のコンパクト化により活力を生み出す地域空間を形成しようというものです。例えば皆さんに関係があるかと思いますが、千葉駅前の開発です。開発により、多くの人々が集まり、お金を落とし、経済の流動性が増す、すなわちお金が回っていくということが、街としてとても良いことになります。

このほかに、千葉市は「国家戦略特区」を国に申請し、取得しております。この特区は、産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点の形成が目的で創設された制度で、様々な実証実験が可能です。例えば、ドローンで宅配便をマンションに届けるといった実験を千葉市で行っています。その他に、外国人等観光客向けの特区民泊も千葉市にはあります。

・戦略6

「千葉市を知り、そして好きになる

仕組みづくり」

先に説明しましたアイデンティティーの確立です。千葉市について皆さんに知っていただき、千葉市をもっと好きになってもらう取組を進めています。

・戦略7

「未来へと引き継がれる「オリンピック・パラリンピック・レガシー」の創出」幕張メッセでオリンピック競技やパラリンピックが開催されますが、終わった後も、パラリンピックを通じた共生社会の実現を目指し、障害に関して意識を持って遺産として残していくということです。

4. 雇用推進課が掲げる課題について

私は、経済農政局経済部の雇用推進課に所属しています。雇用推進課は2018年に新設されました。

当課が抱える課題として、一つ目は、特に千葉市の行政が支援する中小企業への支援です。今、皆さんにとっては売り手市場で非常に良い状況ですが、大企業に学生が流れて市内の中小企業の人材が不足しています。

二つ目は雇用のミスマッチです。入社してみると思っていた会社と違うという理由で、3年以内にすぐ辞めてしまうケース。他に、業界により異なりますが、事務系、文系に偏っているケースがあります。

三つ目は、人口減による労働力不足。専業主婦や高齢者、障害者の方、さらには外国人に対して、どのように働いてもらうかということが大事になってきます。

5-1 雇用推進課の仕事について

課題を解決するための仕事として、大きく四つあります。

一つ目は就職マッチング支援です。インターンシップや合同企業説明会の実施支援の他、国の労働局・ハローワークと一緒に求人、求職をつなげる取組を行っています。

二つ目は、企業の人材確保の支援です。現在、企業の人手不足が深刻です。企業が人材を確保していくためには、企業がもっと魅力的になる必要があります。そのために、当課で専門のアドバイザーを雇用し、アドバイザーによる企業へのコンサルティングを行っています。また、企業向けにセミナーを開催しているほか、企業の社員がスキルアップのために受けた研修費用への補助金制度を設けています。

三つ目は、これから働く人たちへの人材育成です。千葉市の小・中・高校生に対し、キャリアについて考えることや、課題を解決する力をつけてもらう取組も実施しています。

四つ目は、現在、働いている人たちの支援で、こちらは福利厚生等の支援をしています。

皆さんに関係するところでは、敬愛大学他、県内の大学等で組織しているインターンシップ推進委員会に市もお金を出しており、運営を担っています。幕張メッセでのインターンシップマッチングフェアは、参加された方もいるかと思います。その他、「企業&仕事研究フォーラム in 千葉」という市原市と四街道市と3市共同で実施しているインターンシップのマッチン

グフェアもあります。

5-2 産業人材の育成

先に説明した取組から、人材の育成事業についてお話しします。

一つ目は、技術系職種への志望が少ないという課題があるため、技術系職種の魅力を中高生に伝えるという事業です。中学生2年生は、キャリア教育の授業で職場体験があるので、技術系職種のヒト・しごとにフォーカスした啓発冊子を作って中学生に配布しています。また、高校生向けには、企業見学バスツアーを行っています。実際に企業に行き、社員の方とふれあい、その仕事の魅力を知ってもらうことをしています。

2つ目は、アントレプレナーシップ教育です。会社の仕組みや経営を学ぶ場の提供、起業や組織における新事業など、新たな課題を解決していく力、チャレンジしていく力を養うためのものです。千葉市は小中高生に対し、それぞれにアントレプレナーシップ教育事業を実施しています。小学生向けとしては、夏休みおしごと感動体験や西千葉子ども起業塾があります。まず、夏休みおしごと感動体験ですが、敬愛大学と一緒に運営しています。これは、小学生の職業体験のイベントです。千葉駅周辺で、毎年約1,000人の子ども達が参加し、かなり大規模なイベントになっています。そごうやペリエ内の店舗、その他にもありますが、会社に協力いただいて、子ども達を受け入れていただき、小学生がお仕事を体験するというものになっています。次に、西千葉子ども起業塾です。参加した子どもたちが、

グループに分かれてそれぞれ会社をつくりまします。課題は、協力企業のJFE スチールに出してもらいます。課題に対して子ども達の会社が、様々な商品を考えて、事業を企画します。もちろん事業を行うにはお金が必要になりますので、銀行から借りることになります。そこで、銀行を説得する材料として事業計画を作ります。資金が調達できた後は、良い商品を作るために物資を調達し、JFE スチールと交渉を重ねます。BtoB（企業間取引）にこだわっていることもこの事業の特色です。これらの過程において、実際に経営をしている会社の社長さんにアドバイスをもらいながら、最終的にJFE スチールと契約します。商品の評価により、会社が受け取る報酬も変わります。最終的な利益は、税務署に納税するという仕組みになっています。

5-3 市役所の仕事の

やりがいについて

市役所の仕事のやりがいですが、千葉市は政令指定市で人口98万人と規模が大きいです。たくさんの人への影響力がある仕事というのが魅力の一つ。その他仕事を通して学べたこととして、自助、共助、公助という言葉が災害のときに言われますが、やはり自分の力でやること、地域みんなが助け合うことの大切さ、それでは補えない部分を公的機関が支援すること。このつながりの大切さを改めて学ぶことができました。

そして、まちづくりについて。自分が住んでいる街に対して、皆さんもっと興味を持っていただいて、選挙などにも積極的に

参加してもらいたいと思っています。市役所には多種多様な業務があり、仕事の幅が広いです。私も所属した部署以外の業務を全て伝えられるわけではありませんが、スポーツとか福祉とか、教育委員会もあります。幅広い業務があるので、新たに携われることを楽しみにしています。

また、仕事を通じて多種多様な人との出会いもあります。民間企業に勤めていたころは、大学と仕事をするとはなかったですし、自治会や市民の方も含めて、たくさんの人との出会いがあり、いろいろな経験をしました。政治、行政、法律を学ぶことができ、自分に子どもができた時にその知識が役に立っていると思います。

6. 学生へのメッセージ

これからの社会について考えたときに、終身雇用の時代が終わる、転職が当たり前の時代になってくると思います。

スキルの習得、キャリアを積むということが大事ですが、そのためには何が必要かということ、自分で考えることです。手法としては、就職活動で使う自己分析です。これが全てだと思います。これから何をどうしていきたいのか、などということは、自己分析のうえででてくるものではないでしょうか。業界研究も非常に大事ですが、まずは自己分析をして、自分の考えを固めた上で、いろんな業界をもっと知ってもらえたらいいなと思っています。

千葉市の立場としては、千葉市に住んでいただき、千葉市内の会社に勤めてもらえたらありがたいなと思っています。ただし、申し上げたとおり、自分で考えて、自分で

納得した人生を送るのが一番です。

最後に千葉市の良い所をお伝えすると、一番は職住近接です。住むところと会社が近い。これは働いてく上で非常に高いポイントとなると思います。

さらに環境がとても良いです。千葉市は自然が豊かな市で、半分田舎、半分都心です。幕張や千葉駅は比較的都心ですが、緑区・若葉区には、豊かな自然があります。私も子どもができてから、生活環境が変わり、千葉市の子育て環境は非常に良いと思っています。皆さんは若いので、東京にも遊びに行きたいと思います。千葉市は住みながら、東京にも遊びに行ける距離にあります。以上、千葉市のおすすめをして終わりたいと思います。

以上